

資料 4. 岡山大学産婦人科研修プログラム研修施設群

岡山大学病院を基幹施設として、25 連携施設（平成 30 年 4 月現在）と共に岡山大学産婦人科研修プログラム研修施設群を形成している。

各施設の手術・分娩件数、研修可能領域および施設紹介をまとめた。

I. 各研修施設における主な手術件数と分娩数（2017 年 1 月－12 月）

研修施設	総手術件数	婦人科手術 (腹腔鏡・ロボットを除く)	腹腔鏡下手術	分娩数	帝王切開術
岡山大学病院(基幹施設)	628	299	134	420	142
赤堀病院	137	43	6	636	88
赤穂中央病院	388	168	5	471	158
岩国医療センター	300	188	35	380	49
愛媛県立中央病院	848	173	194	1241	481
大阪中央病院	754	0	754	0	0
岡山医療センター	209	31	3	591	175
岡山済生会総合病院	289	149	139	163	37
岡山赤十字病院	287	166	47	281	74
岡山中央病院	299	84	59	79	156
岡山二人クリニック	32	32	0	0	0
落合病院	89	25	0	205	38
香川県立中央病院	447	275	41	522	113
香川労災病院	330	247	68	63	11
倉敷成人病センター	1835	231	1604	1571	297
興生総合病院	217	53	21	456	68
中国中央病院	395	159	67	454	150
津山中央病院	261	107	64	226	78
鳥取市立病院	121	83	8	90	28
姫路聖マリア病院	418	195	65	601	124
姫路赤十字病院	688	357	56	574	235
広島市立広島市民病院	1401	349	458	995	438
福山医療センター	601	256	21	685	292
福山市民病院	301	186	10	195	85
三豊総合病院	148	80	0	204	54
屋島総合病院	150	86	14	192	24

※連携施設は五十音順。

II. 各研修施設の研修可能領域

研修施設	研修指導医	生殖内分泌	婦人科腫瘍	周産期	女性ヘルスケア
岡山大学病院（基幹）	増山 寿	◎	◎	◎	◎
赤堀病院	赤堀洋一郎	◎	△	◎	◎
赤穂中央病院	赤松信雄	◎	◎	◎	◎
岩国医療センター	野田清史	○	◎	◎	◎
愛媛県立中央病院	越智 博	△	◎	◎	◎
大阪中央病院	松本 貴	◎	◎	×	◎
岡山医療センター	熊澤一真	×	○	◎	○
岡山済生会総合病院	平野由紀夫	◎	◎	○	◎
岡山赤十字病院	林 裕治	○	◎	◎	◎
岡山中央病院	金重恵美子	△	○	◎	◎
岡山二人クリニック	羽原俊宏	◎	△	×（妊娠初期のみ）	△
落合病院	近藤恒正	○	◎	◎	◎
香川県立中央病院	高田雅代	△	◎	◎	○
香川労災病院	川田昭徳	×	◎	○	○
倉敷成人病センター	安藤正明	◎	◎	◎	◎
興生総合病院	藤原美佐保	△	△	○	○
中国中央病院	山本昌彦	△	◎	◎	◎
津山中央病院	河原義文	○	◎	◎	◎
鳥取市立病院	早田 裕	△	○	○	○
姫路聖マリア病院	片山隆章	○	◎	◎	○
姫路赤十字病院	水谷靖司	△	◎	◎	○
広島市民病院	児玉順一	△	◎	◎	◎
福山医療センター	山本 暖	×	◎	◎	○
福山市民病院	青江尚志	△	◎	◎	◎
三豊総合病院	石原 剛	△	△	◎	◎
屋島総合病院	河西邦浩	×	○	○	◎

※連携施設は五十音順。各研修病院での専攻医指導に関する研修可能性を4段階(◎、○、△、×)で表示。

III. 研修施設紹介（平成 30 年 4 月 1 日現在）

岡山大学産婦人科研修プログラムの基幹施設および連携施設の特色を紹介します。

1) 基幹施設

岡山大学病院

指導責任者	増山 寿 【メッセージ】われわれの教室は、大学に与えられた使命である三本柱、臨床・研究・教育のバランスを重視して運営しています。産婦人科領域の全てのサブスペシャリティの専門医・指導医が高度な専門医療と最新の研究をすすめており、教育に熱意を持ったスタッフも揃っています。また連携施設と協力して充実した専門研修プログラムを提供しており、さらに多彩なキャリアパスを用意し大学院での研究・留学やさまざまなサブスペシャリティ専門医取得への道が開かれています。決して後悔させません！産婦人科に興味を持った若い皆さんの参加をお待ちしています。
医師数	常勤 13 名 非常勤 12 名 計 25 名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 6 名・専門医 20 名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医 1 名・専門医 3 名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)指導医 2 名・専門医 4 名 日本生殖医学会 生殖医療専門医 3 名 日本がん治療認定医機構 暫定指導医 1 名・認定医 4 名 臨床遺伝専門医制度 臨床遺伝専門医 2 名 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医 1 名 日本女性心身医学会 認定医師 2 名 日本内分泌学会 内分泌代謝科(産婦人科)指導医 1 名 日本臨床栄養学会 臨床栄養指導医 1 名
疾患の比率	婦人科腫瘍 45%, 周産期 45%, 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	婦人科 37 床 産科 25 床 NICU 6 床 新生児 12 床
患者数	婦人科手術 約 400 件/年 (内訳 悪性浸潤癌 80 件、良性 320 件) 分娩 約 400 例/年 帝王切開 140 件/年 母体搬送 90 件/年 外来患者数 約 20,000 名/年
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門医制度研修施設」に加えて「周産期専門医制度基幹施設」および「婦人科腫瘍研修認定施設」となっています。サブスペシャリティである周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医が取得可能です。また、産婦人科内視鏡学会認定医や臨床遺伝専門医も取得可能です。
研修の特徴	良性から悪性まであらゆる婦人科疾患、母体救命、胎児救命、NICUを含むあらゆる周産期疾患、腹腔鏡から体外受精まであらゆる生殖内分泌疾患・女性ヘルスケアなど非常に豊富な症例をそれぞれの専門家による手厚い指導にて研修することができます。さらに希望があればサブスペシャルティの周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医や産婦人科内視鏡学会技術認定医、臨床遺伝専門医取得のための研修に移行できます。学会発表や論文執筆の指導も充実しており、臨床・基礎研究や大学院進学も積極的に推進しています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本婦人科腫瘍学会 専門医制度指定修練施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医基幹研修施設 日本生殖医学会 生殖医療専門医制度認定研修施設 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医制度認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	15 名/年

2) 連携施設（五十音順）

<赤堀病院>

指導責任者	赤堀洋一郎
医師数	常勤医 3名 非常勤 2名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 専門医 3名 指導医 1名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)専門医 1名 臨床遺伝専門医制度 臨床遺伝専門医 1名 日本臨床細胞学会 細胞診専門医 1名 日本乳癌学会 乳腺認定医 1名 麻酔科標榜医 1名 検診マンモグラフィ読影認定医 2名 (内、評価 AS 1名) 乳がん検診超音波検査実施判定医師 (評価 A) 1名
疾患の比率	周産期 40% 女性のヘルスケア 30% 生殖内分泌 20% 婦人科腫瘍 10%
病床	産婦人科 28床
患者数	分娩数 636例 帝王切開 88件 生殖補助医療 132周期 婦人科手術 49件(腹腔鏡 6件 子宮鏡 18件 良性疾患開腹手術 17件 円錐切除 8件) 外来患者数 32,000人/年
病院の特徴	岡山県北津山市にある単科の産婦人科病院です。大正6年に開設され、現在も悩み持つ多くの女性が当院を頼りに来院しています。分娩数は増加傾向で約600件のローリスク分娩を取り扱っており、診療のメインは周産期領域です。サブスペシャリティの資格を生かし、特に胎児スクリーニングや早産予防に力を入れています。 診療の細分化の進む都市部と違い、幅広い患者層が地元での治療完結を望む傾向にあります。そのニーズに応えるべく、生殖補助医療を含む不妊治療や対応可能な婦人科手術は積極的に行うようにしています。婦人科悪性腫瘍は年間約10例を診断し、中核病院に紹介しています。また、ユニークな点は女性のヘルスケアの一環として、乳がん検診に力を入れていることです。年間3,000件のマンモグラフィをスクリーニングし、非常勤の乳腺専門医の力を借りながら乳癌の診断まで自院で行っています。年間約40例の乳癌を発見し紹介しています。
研修の特徴	外来1日平均170人(新患15人)と多くの患者が来院し、一次施設で完結する common disease の多くを経験できます。また、重症産科疾患や悪性婦人科疾患については中核病院を受診する前にどのような医療が展開されているのか学べます。 不妊治療と妊娠の管理が単一施設で学べるのが特徴です。生殖医療から周産期医療への移行を両面から見ることで、双方からのアプローチが可能になります。妊娠した後のことも考えた患者個人に適したテーラーメイド医療を提供する能力を養います。 周産期管理や婦人科手術を単科病院で行うにあたり必要なことはリスクの見極めだと考えています。母体搬送の適切なタイミングを計ることや他科の応援なしで行う婦人科手術を安全に提供するためには自分の現時点での診療能力を把握することが必要です。当院の研修では自分の能力と向き合い、診断から治療まで自分で完遂できるのか、理論的に、そして感覚的に判断することを学んでほしいと考えています。
学会認定施設	
専攻医受け入れ可能人数	1名/年

<赤穂中央病院>

指導責任者	赤松信雄
医師数	常勤3名 非常勤2名 計5名

指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 4名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医 1名 兼 専門医 1名 日本女性医学会 認定医 1名 日本超音波医学会 超音波指導医 2名 兼 専門医 2名 日本抗加齢医学会 専門医 2名 マンモグラフィ 検診精度管理委員会認定読影医(評価 A) 1名 JABTS 認定超音波読影医(評価 A) 1名 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 50 % 周産期 40 % 生殖内分泌 5 % 女性ヘルスケア 5 %
病床	婦人科 3 床 産科 23 床 NICU 2 床 新生児 16 床
患者数	婦人科手術数 約 380 件/ 年 分娩数 約 410 件/ 年 帝王切開数 約 130 件/ 年 外来患者数 約 17,000 件/ 年
病院の特徴	本院病床数 265 床、関連産科病院(小国病院)39 床などで総計 419 床、総診療科数は 20 科と多くの分野を有します。産婦人科は卵巣から墓場までをモットーに、不妊治療をはじめ、妊婦の primary care から合併症妊娠まで幅広い分野をカバーしており、年間約 400 例の分娩を取り扱っています。また、婦人科手術の習得に十分な症例数があり、良性から悪性腫瘍まで可能な限り対応、鏡視下手術も積極的に導入しています。体外受精、高齢者に対する HRT を中心とした anti-aging・骨粗鬆症検診、マンモグラフィや超音波を中心とした乳房検診等も行っています。ヘリカル CT、MRI、PET、電子カルテなどの完全稼働中です。
研修の特徴	周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌、女性ヘルスケアの全ての分野の研修が可能である。加えて、無痛分娩研修、2名の超音波指導医による超音波研修、マンモグラフィ読影研修も同時に行える。
学会認定施設	日本産婦人科学会認定医制度卒業研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
専攻医受け入れ可能人数	1名/年

<岩国医療センター>

指導責任者	野田 清史
医師数	常勤 4 名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 1 名・専門医 3 名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)暫定指導医 1 名
疾患の比率	婦人科腫瘍 30%, 周産期 50%, 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 20%
病床	婦人科 8 床 産科 14 床 NICU 6 床
患者数	婦人科手術 約 190 件/年 (内訳 悪性浸潤癌 42 件、良性 145 件) 分娩 380 例/年 帝王切開 49 件/年 母体搬送 12 件/年 外来患者数 約 13,000 名/年
病院の特徴	病院は長年地域の拠点病院としての機能を維持してきた。特に救急医療には力を入れており、広範な医療圏より 2 次、3 次救急患者を 1 年中 24 時間体制で受け入れている。平成 25 年には旧病院より新病院に移転し、320 列 CT、3.0 テスラ MRI、PET-CT、IMRT、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ Si」など最新の高度医療機器を導入した。平成 14 年より地域がん診療拠点病院に指定されている。また平成 3 年 4 月には母子医療センターを開設し地域周産期医療センターとして地域の周産期医療の拠点となっている。

研修の特徴	分娩数は移転とともに急激に増加しており、平成 28 年は 425 例でした。TOLAC や骨盤位経膈分娩、双胎の経膈分娩を積極的に行っており、広く異常分娩管理の研修が可能である。産科医が無痛分娩をしており、硬膜外麻酔の実施、管理の研修が可能である。 悪性腫瘍の新患者数は平成 26 年が 107 例で平成 23 年に比べ約 3 倍に増加している。他科、他部門との連携により、集約的な悪性腫瘍の管理の研修が可能である。病院の近くに米軍基地があり、米人の分娩、婦人科疾患の治療症例が年々増加しており英語研修が可能である。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門研修連携施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医指定研修指導施設
専攻医受け入れ可能人数	2 名／年

<愛媛県立中央病院>

指導責任者	越智 博
医師数	13 名
指導医・専門医数	指導医 5 名 専門医 9 名
疾患の比率	周産期領域 50% 婦人科腫瘍領域 40% 女性のヘルスケア・生殖内分泌 10%
病床	60
患者数	外来患者 2400(産科 1600、婦人科 800)名(1ヶ月平均) 新規入院患者 180 (産科 140、婦人科 40)名(1ヶ月平均)
病院の特徴	総合周産期母子医療センターを有し高度周産期医療について豊富な症例があります。また、婦人科についても豊富な症例を経験できます。特に腹腔鏡下手術については、症例の豊富さと最先端レベルの治療を誇っており、上級医とともに積極的にそれらの診療に参加できます
研修の特徴	産科：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置(正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等)、新生児の診察、産褥管理などを豊富な症例によって研修できます。 婦人科：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理を研修できます。 生殖医療：基礎体温表の診断・各種ホルモン検査による診断、治療方針の立案が研修できます。 手術については、 産科：帝王切開術、頸管縫縮術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術など 婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎(拡大単純)子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術(切除術)、卵巣癌根治手術、Bartholin 腺手術(造袋術、摘出術)、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術など 生殖医療：腹腔鏡検査などについて研修が可能です。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期新生児医学会専門医制度認定研修施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本女性ヘルスケア学会認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	3 名(1 年目、2 年目、3 年目あわせて 8 名)

<大阪中央病院>

指導責任者	松本 貴
医師数	常勤 6 名、非常勤 5 名
指導医・	日本産科婦人科学会指導医 1 名、専門医 4 名

専門医数	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 3 名
疾患の比率	婦人科腫瘍(良性疾患)95%、生殖・内分泌(卵管性不妊・多嚢胞性卵巣症候群)5%
病床	婦人科20床
患者数	婦人科手術 約 750-800 件/年 外来患者数 約 2,000 名/年
病院の特徴	健保連大阪中央病院は内視鏡下手術を積極的に推進しており、特に婦人科では腹腔鏡下手術の対象となる良性疾患(子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫など)を中心とした診療をしています。
研修の特徴	<p>当科では、子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣嚢腫などの良性疾患を中心に研修していただきます。ただ、単に手術をしったり見学したりするだけではなく、治療の前に手術の難易度や腹腔内の状態をできるだけ評価し、治療計画を立てることを一緒に学びます。また、手術に際しては、ビデオによる予習・復習を行ない、手術手技や疾患に対して理解を深められるよう指導を行なっています。</p> <p>当院で施行している腹腔鏡下手術の特色としては、拡大視によってできるだけ精細な手術手技(microsurgical approach)により安全な手術を行なうことを目標としています。(例としては、卵巣予備能に影響を与えない卵巣チョコレート嚢胞の核出、妊孕能の温存を目指した子宮筋腫核出、大きな子宮や癒着症例に対しても安全に行なえる子宮全摘等)</p> <p>また、骨盤痛を伴う難治性子宮内膜症・腸管や尿路系の子宮内膜症に対しても、腹腔鏡下手術を行なっています。</p> <p>腹腔鏡下手術の研修としては、上記のように臨床業務や学会発表、論文執筆のほか、研究会(年3回)や教育セミナー(年2回)の主催、不妊治療施設との合同カンファレンス(年1回)などがあります。</p>
学会認定施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	2 名/年

<岡山医療センター>

指導責任者	熊澤 一真
医師数	常勤 8 名 非常勤 2 名 計 10 名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 3 名・専門医 6 名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)暫定指導医 1 名・指導医 1 名・専門医 3 名 臨床遺伝専門医制度 臨床遺伝専門医 2 名 日本超音波医学会超音波専門医 1 名
疾患の比率	周産期 90%、婦人科腫瘍 7%、生殖・内分泌・女性ヘルスケア 3%
病床	産科 29 床 MFICU 6 床 婦人科 5 床 NICU 18 床 GCU 32 床
患者数	婦人科手術 約 70 件/年 (内訳 悪性浸潤癌 10 件、良性 60 件) 分娩 約 600 例/年 帝王切開 190 件/年 母体搬送 110 件/年 外来患者数 約 10,000 名/年
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門医制度研修施設」に加えて、妊娠・出産から新生児にいたる高度で専門的な周産期医療を提供できる施設として、平成 17 年 4 月 1 日付けで「総合周産期母子医療セン

	ター」の指定を受け「周産期専門医制度基幹施設」となっています。主に県東部の周産期医療の中核病院として、新生児科、小児外科と協力し、麻酔科をはじめ内科や外科など関係各科のバックアップのもと、24 時間体制で母体・胎児・新生児の医療に携わっています。サブスペシャリティである周産期(母体・胎児)専門医、日本超音波医学会超音波専門医が取得可能です。胎児頻拍性不整脈に対して先進医療認定施設になっています。
研修の特徴	岡山県内 2 つある総合周産期母子医療センターのうちの 1 つであり、ローリスク妊婦・胎児から重症切迫流産症例や多胎、内科・外科疾患合併妊婦、子宮内胎児発育不全、さまざまな胎児疾患などハイリスク妊婦・胎児症例を管理しています。周産期の基礎知識・技術の習得はもちろん、胎児超音波検査の技術習得、胎児輸血や胎児頻拍性不整脈治療など胎児鏡下レーザー治療以外の胎児治療が可能で、周産期(母体・胎児)専門医習得のための研修ができます。新生児科や小児外科などとチームとして周産期医療に臨んでおり、希望者には NICU 研修も可能です。学会発表や論文執筆の指導も積極的に取り組んでいます。周産期医療を基礎から専門的に学びたい方の参加をお待ちしています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒業研修指導施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医基幹研修施設
専攻医受け入れ可能人数	1~2 名/年

<岡山済生会総合病院>

指導責任者	平野由紀夫
医師数	9 名(うち 2 名は診療顧問、常勤 7 名、非常勤 2 名)
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医:3 名・専門医:7 名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医 1 名・専門医 1 名 日本がん治療認定医機構 暫定指導医 2 名・認定医 2 名 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医 1 名 日本周産期・新生児学会指導医 1 名 日本抗加齢医学会専門医 1 名
疾患の比率	婦人科:約 55%、産科:約 35%、不妊・内分泌:約 10%
病床	32(産婦人科)床、新生児
患者数	婦人科手術 約 289 件/年 (内訳 悪性浸潤癌 28 件、良性 297 件) 分娩 163 例/年 帝王切開 37 件/年 外来患者数 約 14,000 名/年
病院の特徴	がん拠点病院のため、がん患者の割合が多い。また、外科医が多く、手術症例が多い。特に、消化器、および、肝・胆・膵、呼吸器外科の症例が多い。また、救急にも力を注いでいる。産婦人科も骨盤外科医との手術が多く、腹腔内の基本的操作からトレーニング可能である。また、婦人科救急も研鑽可能である。
研修の特徴	当科では婦人科手術に注力し、腹腔鏡手術が増加傾向です。腹腔鏡機器の導入も積極的に行なっています。腫瘍専門医が在籍しており、悪性腫瘍も積極的に加療しております。 周産期では、NICU の病床が無いため、36 週以降の出産を取り扱っています。助産施設のため、産前、産後の母児 Care を MSW を含めたチームでの管理を行なっています。 不妊、生殖では、一般的な不妊治療以外に、人工授精等の治療も行っています。 当院では、2016 年 1 月より、入院棟と外来棟が分離となりました。そのため、外来での研修、および入院での研修をより集中して行えるよう、カリキュラムを組んでいます。外来では、画像診断、超音波およびヒステロスコープなど、診断技術を積極的に学べるよう配慮しています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒業研修指導施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定施設 婦人科悪性腫瘍研究機構認定施設
専攻医受け入れ可能人数	3 名/年

<岡山赤十字病院>

指導責任者	林裕治
医師数	常勤7名(育休中1名含む) 非常勤1名 計8名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医1名 専門医7名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)暫定指導医1名 専門医1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 40% 周産期 50% 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	婦人科15床 産科20床 NICU 3床 新生児7床
患者数	婦人科手術 約190件/年(内訳 悪性浸潤癌25件 良性165件) 分娩 約277例/年 帝王切開65件/年 母体搬送 42件/年 外来患者数 約13400名/年
病院の特徴	「日本産婦人科学会専門医制度研修施設」になっています。 サブスペシャリティである周産期(母体・胎児)専門医の取得が可能です。
研修の特徴	良性から悪性までの様々な婦人科疾患、ハイリスク妊娠を含む周産期疾患等多くの症例を指導医のもと研修することができます。また、サブスペシャリティの周産期(母体・胎児)専門医取得の研修もできます。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児学会 母体・胎児専門医指定施設
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<岡山中央病院>

指導責任者	金重 恵美子 【メッセージ】当院では分娩と良性婦人科疾患手術及び、女性のヘルスケアを3本柱に診療しています。良質で患者満足度が高い医療を提供し、かつ職員満足度も高い医療機関を目指しています。岡山大学および川崎医科大学の連携施設として、十分な研修症例を経験できます。若い人達に、指導医の知識と技術を全部吸収していただきたいと願っています。
医師数	常勤 4名 非常勤 5名 計 9名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会指導医 2名 専門医 5名
疾患の比率	婦人科腫瘍 25% 周産期 45% 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 30%
病床	婦人科 18床 産科 20床
患者数	婦人科手術 約580件/年 分娩 約750件/年 帝王切開 約150件/年 外来患者数 約 16,000名/年
病院の特徴	当院は地域医療支援病院として他の病院・医院・クリニックと連携をとり、入院治療、検査、手術、救急医療などのより専門的な医療を行っています。 そのため、外来は自費診療である産科をのぞき、他の医療機関から紹介された方を中心に診療しております。(但し併設して外来施設<セントラル・クリニック伊島>を有していますので、そちらで全科一般外来をしています) また、地域医療支援病院の役割としての救急医療も充実しています。
研修の特徴	産婦人科は設立当初からの診療科です。年間約750件の分娩があり(そのうち硬膜外麻酔分娩が1/3)、分娩管理、介助などの習得は十分に行えます。手術は良性疾患を中心に悪性疾患も含めて年400件程行っており、そのうち約20%が腹腔鏡下手術で基本的な手術手技に関しては十分に習得できると思われます。また、放射線療法を要する進行子宮頸がんの治療に関しては大学病院などと連携し、ARTなどの特殊な生殖医療に関しては提携病院にて研修を進めることができます。不妊症外来は人工受精が年間約70件程度あります。また、思春期・更年期外来にも力を入れています。高齢女性の増加に伴い、骨粗しょう症や骨盤臓器脱の診療も増えています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度 専攻医指導施設
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<岡山二人クリニック>

指導責任者	羽原俊宏
医師数	常勤医師 5 名 非常勤医師 1 名 計 6 名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 1 名・専門医 5 名 日本生殖医学会 生殖医療専門医 4 名 臨床遺伝専門医制度 臨床遺伝専門医 2 名 検診マンモグラフィ読影認定医 1 名
疾患の比率	婦人科腫瘍 5%, 生殖・内分泌 95%
病床	18 床
患者数	婦人科手術 約 40 件/年 (内訳 良性 40 件) TESE 約 30 件/年 FT カテーテル 10 件/年 採卵 約 1300 例/年 胚移植 約 1700 例/年 外来患者数 約 60,000 名/年 初診カップル数 約 1100 組
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門医制度研修連携施設」に加えて「生殖医療認定研修施設」および「生殖医療認定研修連携施設」となっています。サブスペシャリティである生殖医療専門医が取得可能です。一般不妊治療から人工授精、腹腔鏡を含めた不妊症原因検索に対応し、卵管鏡下卵管形成術も行っております。また、毎週定期で男性外来を開設しており、性交障害、射精障害、無精子症、高度乏精子症に対する顕微鏡下精巣内精子採取術、逆行性射精、精索静脈瘤手術などの男性不妊治療にも対応可能です。採卵および胚移植、診察において主治医制とせず、曜日による担当性を敷くことにより、全ての勤務医師が、偏ることなく生殖医療全般に携わることが出来ます。担当がん患者に対する卵子・胚・精子凍結による妊孕性温存治療を乳腺内分泌外科、岡山県内・県外施設からの紹介を受け積極的に実施しています。2017.5 月より岡山大学乳腺外科医師の派遣を受け、乳腺甲状腺外来および乳がん検診も開始しております。また、電子カルテ、file maker をベースとした自院開発のデータベースを基に、バーコードによる検体認証・患者認証・自動記録を全工程で導入し、安心安全な診療支援システムを構築しています。また、不妊症看護認定看護師、遺伝カウンセラー、臨床心理士を常勤として医師のみでなく、チームとしての医療を提供します。
研修の特徴	生殖医療に特化して研修することができます。女性および男性不妊症検査・治療・不育症検査・治療全般の研修を行うことができます。
学会認定施設	日本生殖医学会 認定研修施設および研修連携施設
専攻医受け入れ可能人数	1-2 名/年

<落合病院>

指導責任者	近藤恒正
医師数	常勤医 2 名、非常勤医 3 名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会専門医 2 名 検診マンモグラフィ読影認定医 1 名
疾患の比率	周産期 60%、婦人科腫瘍 15%、女性ヘルスケア 20%、不妊内分泌 5%
病床	15 床
患者数	婦人科手術約 40 件/年、分娩 215 件/年、帝王切開 32 件/年、外来患者数 8,548 名/年
病院の特徴	真庭圏域で周産期を取り扱っている唯一の施設であり、地域の皆様に貢献できるように努力しております。また、岡山県で指定されている災害拠点病院 10 病院のうちの 1 つです。当院のメンバーで DMAT を 2 隊編成することができます。高速道路のインターチェンジが近くにあり、東西南北にアクセスしやすくなっており、患者の受け入れおよび搬送に便利です。病院ヘリポートへのドクターヘリの離発着が可能ですので、特に緊急を要する患者の搬送が可能となっております。2020 年を目途に移転を予定しています。
研修の特徴	プライマリケアが必要な方が最初に訪れるので、周産期管理、悪性腫瘍の早期発見、女性のヘルスケアがなどと非常に幅広い領域にかかわる診療が可能であるという点が最大の特徴です。ハード、ソフトの医療資源が限られており、自分の診療能力と合わせてその中でどこまでできるのかを理解し、対応能力を超えたと考えられる場合には高次の施設に紹介することになります。それも重

	要な技術の一つと考えられ、当院で研修をされる場合にはぜひ身につけていただきたいと思えます。外来では、丁寧な診察を行うようにしています。更年期ばかりでなく、広い年代での不定愁訴に対して証をみながら積極的に漢方薬を使った治療も行っています。
学会認定施設	
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<香川県立中央病院>

指導責任者	高田 雅代 【メッセージ】基幹施設で培った標準的な基礎知識、医療技術を連携病院という、実際の臨床中心の場で開花させるお手伝いを、若い将来のある専攻医の立場に立って実践します。 何よりもチームワーク医療を重視しており、若い専攻医が、自分の考え、疑問を自由にぶつけることができる現場を重視しています。また女性医師の妊娠、分娩、育児についても勤務体制に十分に配慮しています。多くの若い先生の研修をお待ちしています。
医師数	常勤5名 非常勤1名 計6名（男性医師1、女性医師5）
指導医・専門医数	非常勤医師を含め、 日本産科婦人科学会 専門医6名 うち指導医3名・暫定指導医1名 日本婦人科腫瘍学会 専門医1名 うち婦人科腫瘍指導医1名 日本周産期、新生児学会、周産期専門医1名 日本超音波医学会 専門医1名 日本女性医学会 暫定指導医1名 日本性感染症学会 認定医1名 母体保護指定医 3名
疾患の比率	婦人科腫瘍 50%、周産期 40%、生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	婦人科 21床 産科 24床 NICU 0床 新生児 10床
患者数	婦人科手術 332件/年 良性手術症例 274件/年 悪性浸潤癌症例 61件 分娩 496例/年 帝王切開 118件/年 母体搬送 40件/年 外来患者数 約15600名/年（2016年）
病院の特徴	県の基幹病院として多くの分野で県内最多の症例を扱っています。平成26年春には新病院に移転し、がん・心疾患・脳血管疾患の専門センターを設置し、「ノバリス Tx」や「PET-CT」、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ Si」といった最新型の医療機器を導入しています。急性期医療に機能特化し、また高度医療や、重症患者を中心に受け入れる三次救急医療に重点化しています。災害時医療やへき地医療も行うとともに、優秀な人材の確保・育成にも努めています。 産婦人科としては「日本産科婦人科学会専門医制度研修施設」に加えて「婦人科腫瘍研修認定施設」となっています。日本超音波医学会超音波専門医が取得可能です。
研修の特徴	良性から悪性まであらゆる婦人科疾患、産科疾患について手厚い指導にて研修することができます。特に手術については、当院の大半の手術に加わってもらっています。婦人科悪性腫瘍については病院の規模の割に症例が多いのが特徴です。当院が香川県の基幹病院ですから、救急患者の搬送も多く、女性特有の疾患による救急医療、女性特有のプライマリケアについて研修を行うことができます。また内科や外科、脳外科疾患など他科疾患合併妊婦も多く管理しています。NICUがないのが誠に残念ですが、小児科の協力で、特に大きな合併症のない30週以降の新生児は管理可能です。より早期に娩出の可能性がある症例は、NICUが無い施設として、どのタイミングで高次施設へ母体搬送すべきかを研修することも決して無駄なこととは思いません。各種学会、研究会など将来のサブスペシャリティの獲得につながる聴講、発表、論文作成などは積極的に支援します。日本の歴代の産婦人科教授が数名、当院で研修した経験を持つという伝統のある研修病院です。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本婦人科腫瘍学会 専門医制度指定修練施設
専攻医受け入れ可能人数	3~4名/年

<香川労災病院>

指導責任者	川田 昭徳
医師数	常勤 4 名(緩和ケア科兼任 1 名含む)、非常勤 2 名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会指導医 4 名、専門医 4 名 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1 名 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 3 名 母体保護法指定医 3 名
疾患の比率	婦人科腫瘍 65%、周産期 10%、生殖内分泌ヘルスケア 25%
病床	産科婦人科 21 床、陣痛室 3 床、分娩室 2 床
患者数	外来患者数 275745 名/年(2017 年 1 月～2017 年 12 月)
病院の特徴	がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院
研修の特徴	良性から悪性まであらゆる婦人科疾患に対応しています。特に悪性腫瘍に関しては、当院ががん診療連携拠点病院に指定されており、最重要事項であると考えています。中讃地区唯一の取り扱い施設として、手術療法、化学療法など積極的に施行しています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設 日本婦人科腫瘍学会指定修練施設
専攻医受け入れ可能人数	1-2 名/年

<倉敷成人病センター>

指導責任者	安藤 正明
医師数	常勤 17 名 非常勤 0 名 合計 17 名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 4 名・専門医 12 名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医 1 名 日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医 4 名 日本内視鏡外科 技術認定医(産婦人科) 2 名 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 1 名
疾患の比率	婦人科腫瘍:40% 周産期:30% 生殖:30%
病床	産婦人科 75 床
患者数	婦人科手術 約 1835 件/年 (内訳 悪性浸潤癌約 150 件、良性約 1600 件) 分娩 約 1571 例/年 帝王切開 約 297 件/年 外来患者数 約 60,036 名/年
病院の特徴	日本産科婦人科学会専攻医指導施設であり、さらに日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設であります。特に悪性腫瘍に対する腹腔鏡科手術については、「腹腔鏡科子宮体癌根治術」の施設認定、先進医療「腹腔鏡科広汎子宮全摘術(子宮頸癌)」実施施設の認定も受けており、さらに手術支援ロボット・ダヴィンチを導入し、現在までに 250 件以上の手術を行っています。
研修の特徴	現在も日本産科婦人科学会専攻医指導施設であり、良性悪性を問わない数多くの婦人科手術が実施可能です。さらに、周産期、生殖も中四国地域でもトップレベルの症例数を誇り、その非常に多くの症例数を専門医から研修することが可能です。さらにサブスペシャリティとしては産婦人科内視鏡技術認定医の研修が非常に円滑におこなうことが可能です。また、2017 年の 1 年間で学会発表 102 件、論文 8 編と、学会発表や論文執筆の指導体制も整っております。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専攻医指導施設 日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	1 人

<興生総合病院>

指導責任者	藤原 美佐保
医師数	常勤 2名 非常勤 3名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 1名・専門医 5名 日本婦人科腫瘍学会 専門医 1名(非常勤) 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医 1名(非常勤) 日本人間ドック学会 専門医 2名 母体保護法指定医 2名
疾患の比率	周産期 60%, 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 25%, 婦人科腫瘍 15%
病床	産婦人科(女性小児混合病棟) 26床
患者数	分娩 約 450 帝王切開 約 70 年 婦人科手術 約 80 例/年 流産手術 約 70 例/年 外来患者数 約 12000 名/年
病院の特徴	広島県の災害拠点病院であり(病院屋上にヘリポートを併設)、整形外科、心臓血管外科、循環器内科等を中心に三原市の救急指定病院として稼働しています。
研修の特徴	周産期、一般婦人科診療、思春期や更年期外来等を中心とした研修となります。婦人科手術は良性疾患や初期の悪性疾患がほとんどで、不妊治療は人工授精までの対応です。希望に応じ連携病院での悪性腫瘍手術見学や不妊専門クリニックの見学等も依頼可能です。また、高次機関へご紹介した悪性進行例の方については、高次機関で加療後の終末期受け入れ等も行っています。NICUについては、隣接尾道市の周産母子センターに依頼しています。
学会認定施設	なし
専攻医受け入れ可能人数	1名/年

<中国中央病院>

指導責任者	山本昌彦
医師数	常勤 4名 非常勤 1名
指導医・ 専門医数	日本産科婦人科学会 指導医 1名 専門医 3名 日本がん治療認定医機構 暫定教育医 1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 40% 周産期 50% 生殖、内分泌、女性ヘルスケア 10%
病床	産婦人科 24床(産科専用 10床)
患者数	婦人科手術 395 件/年(内訳 悪性浸潤癌 9 件 良性疾患(腹腔鏡手術 67 件 その他 319 件)) 分娩 454 件/年 帝王切開 150 件/年 母体搬送 7 件/年 外来患者数 約 12,000 名/年
病院の特徴	広島県東部、福山市北部の新興住宅地にある公立学校共済組合の運営する病院です。当院より北部および隣接する岡山県井原市にも産婦人科施設なく、広範囲から患者が来られており、12年前に現在地に移転し、年間分娩数 80 から 500 前後と急激な増加で、産婦人科医も 2 名から 4 名へ増員となり、現在診療しています。当院は、糖尿病、血液疾患、膠原病、呼吸器、消化器疾患など、内科が充実しており、合併症妊娠も多数取り扱っています。また、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設に加え、日本周産期新生児医学会 母体胎児専門医認定補完施設となっています。
研修の特徴	当院では、産婦人科の基礎を徹底的に学んでもらうことを主眼としています。分娩数約 500 件、手術件数約 400 件(帝王切開など産科手術含む)があります。そこで、産婦人科医として、まず様々な状況での分娩を学び、基本的手術(帝王切開術、子宮全摘術、付属器腫瘍手術など)を第 1 助手から、執刀までできるよう修練し、2016 年からは TLH も導入しています。また、産婦人科では必要な腰椎麻酔、硬膜外麻酔も実践して手技を学んでもらっています。婦人科癌では、抗がん剤化学療法について、その副作用等を含め学び、基本的手術手技ができれば、骨盤内リンパを含めた手術手技の研修を行います。 外来患者は 12,000/年あり、妊婦健診、婦人科では子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮脱、月経困難症、不妊症、更年期障害などに、薬物療法などを行っています。2017 年から、漢方更年

	期外来も開設しています。 また、2016 年より Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)セミナーを当院でも開催し、今年度も11月10・11日開催予定です。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度専攻医指導施設 日本周産期新生児医学会 母体胎児専門医認定補完施設
専攻医受け入れ可能人数	1名/年

<津山中央病院>

指導責任者	河原義文
医師数	常勤医 3名 非常勤医 3名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会指導医:1名・専門医:3名 日本周産期・新生児学会 周産期(母体・胎児)暫定指導医:1名 母体保護法指定医:1名 日本周産期・新生児学会 新生児蘇生法インストラクター:5名
疾患の比率	婦人科腫瘍:45% 周産期:45% 生殖・内分泌・女性ヘルスケア:10%
病床	産婦人科:25床 NICU:6床 :
患者数	婦人科手術:約170件/年(内悪性浸潤癌:20件/年) 分娩:約230件/年 帝王切開:約70件/年 母体搬送:約35件/年 外来患者数:約11000名/年
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門医制度研修施設」に加えて「周産期専門医制度研修施設」であり、地域周産期母子医療センターとして、地域の母体搬送を受けている。救命救急センターを有し、緊急時の対応には速やかに救急医及び各科専門医が集合し医療に当たっている。
研修の特徴	婦人科疾患(良性腫瘍・悪性腫瘍・感染症等)の研修ができ、救命を含め他科の協力がスムーズで病院をあげて患者に対する治療が行える。周産期医療に関しては、近隣からの母体搬送も多く十分な研修が受けられる。生殖医療に関して当院は ART を行っていないため症例が限られており、岡山大学を始め他の不妊専門医療機関での研修を補う必要がある。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医研修施設
専攻医受け入れ可能人数	1名/年

<鳥取市立病院>

指導責任者	早田 裕
医師数	常勤医 2名、非常勤 1名 計3名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 専門医 3名 日本がん治療認定医機構 暫定指導医1名、認定医1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 50%、周産期 40%、生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	産婦人科病床 38床
患者数	婦人科手術件数 約120例/年 分娩 約100例/年、帝王切開 約30例/年、母体搬送 約2例/年
病院の特徴	総病床数は340床、総診療科数は20科です。地域がん診療連携拠点病院に指定され、高度医療機器として、PET/CT、ヘリカCT、MRI、RALS 小線源放射線治療装置、ライナックなどを備え、電子カルテの完全稼働を行っています。産婦人科の常勤医は2名(日本産科婦人科学会専門医2名)、当番はオンコール制です。 年間手術件数は約250件で良性腫瘍は開腹、腔式、腹腔鏡手術を症例によって選択しています。悪性腫瘍では子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんで根治手術も行っており、進行がんの場合は化学療法、放射線療法を含め治療にあたっています。分娩件数は約140件でNICUはありませんが、ハイリスク症例も他科と連携しながら扱っており、周産期、腫瘍を幅広く研修することができます。
研修の特徴	1年目より外来業務にて診察、診断能力を養い、主治医として指導医とともに治療計画を立てて

	<p>いきます。腹式子宮全摘、腔式子宮全摘、子宮脱手術、帝王切開術、腹腔鏡手術など良性疾患や産科疾患の基本的な手術は術者として、悪性腫瘍手術（広汎全摘など）などハイリスクな手術は助手として実施し、放射線・抗がん剤治療を指導医の基で行います。基本的な周産期症例も外来の妊婦健診から分娩まで主治医として管理します。</p> <p>2、3年目では悪性腫瘍手術（広汎全摘など）などハイリスクの手術を術者として実施し、放射線・抗がん剤治療や重症周産期管理を主治医として治療にあたります。</p> <p>なお、麻酔、新生児管理および細胞診・病理の研修は希望があれば可能です。中規模病院のため診療科間の垣根が無く、その他の研修も随時可能と考えています。</p>
学会認定施設	日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医補完施設
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<姫路聖マリア病院>

指導責任者	片山隆章
医師数	常勤4名 非常勤4名 8名
指導医・専門医数	日本産婦人科学会 専門医 3名
疾患の比率	婦人科腫瘍 25% 周産期 70% 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 5%
病床	産科 23床 婦人科は混合病棟のため定数なし
患者数	婦人科手術 約250件/年 分娩 約600件/年 帝王切開 約125件/年 外来患者数 約25000名/年
病院の特徴	姫路市の北部に位置し、姫路市のみならず周辺各都市、郡部を医療圏とする440床の総合病院である。産婦人科は多くの分娩を行っており、ハイリスク分娩も取り扱う。婦人科は良性疾患中心の医療を行っているが、悪性腫瘍の手術、化学療法も積極的に行っている。
研修の特徴	正常分娩・異常分娩の管理、手術について多くを経験できる。また婦人科良性腫瘍の手術も多数経験できる。
学会認定施設	日本周産期・新生児医学会補完施設
専攻医受け入れ可能人数	1名

<姫路赤十字病院>

指導責任者	水谷靖司
医師数	常勤13名 非常勤1名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医2名・専門医8名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)指導医1名・専門医1名 日本がん治療認定医機構 暫定指導医1名・認定医3名 母体保護法指定医師6名 日本女性医学学会 女性ヘルスケア暫定指導医1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 45%、周産期 45%、女性ヘルスケア 10%
病床	産婦人科 42床 MFICU6床
患者数	婦人科手術 約420件/年（悪性-境界悪性腫瘍開腹 約100件、良性腫瘍-類腫瘍開腹 約140件、腹腔鏡手術 約60件、子宮鏡手術 約25件、腔式手術 約90件） 分娩 約580件/年 帝王切開 約230件/年（前置胎盤含む）母体搬送 130件/年 外来のべ患者数 約17,000名/年 新入院患者数 約3,000人/年
病院の特徴	総合周産期母子医療センター、がん診療拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院等の指定を受け、また、神戸市以西では唯一のDPC特定病院群に指定され、中・西播磨医療圏においてとても重要な役割を担っている病院です。病院のモットーは「働きたい職場づくり、治療を受けたい病院づくり」で、多職種連携や医師の負担軽減にも力を入れています。また、最新医療機器も導入さ

	れています。赤十字病院球技大会が毎年開催され、テニスなどのスポーツクラブ活動や英会話のコミュニティもあります。
研修の特徴	中・西播磨医療圏域の悪性腫瘍患者、内科等合併症妊娠や前置胎盤等のハイリスク妊婦、母体搬送はほぼ当院に集まってくるので、これらの症例が研修のメインとなりますが、子宮筋腫などの良性婦人科腫瘍、子宮脱、更年期障害などの女性ヘルスケア、また正常産も経験することもできます。各研修医に対し指導医1名を決めますので、入院患者の診療や手術は指導医と担当します。当直は約4-5回/月、オンコール3-4回/月です。当直の時は必ず上級医も当直しますので、安心して下さい。当直以外はほぼ完全オフですので、担当医だからといって呼び出されることはありません。また、当直の代休もしくは半日休みを取ってもらっています。定期の外来診察は専門研修開始1年～1.5年で担当してもらいますが、婦人科検診業務や癌フォロー外来は、適時開始します。術前カンファレンス、周産期カンファレンス、抄読会を定期的に行っております。学会発表や論文執筆指導も積極的に行っています。多忙な職場ですが、研修しがいのあるところです。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医基幹研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 母体保護法指定医研修機関
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<広島市立広島市民病院>

指導責任者	児玉順一 【メッセージ】 年間分娩数は約1,000件、手術件数は約1,400件であり、救急車による母体搬送100件、卵巣嚢腫の茎捻転、子宮外妊娠など緊急手術が必要な症例も24時間体制で受け入れています。産婦人科医15名(男性6名、女性9名)で周産期医療、婦人科腫瘍、内視鏡下手術、女性医学など、いずれの分野もそれぞれの専門性を持って、高いレベルのバランスのとれた診療を行っていますので各分野の十分な研修が可能です。
医師数	常勤15名 非常勤1名 計16名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医5名・専門医10名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍指導医1名・専門医3名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)暫定指導医1名・専門医5名 日本がん治療認定医機構 認定医3名 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医3名 日本女性医学学会 女性ヘルスケア暫定指導医1名・専門医1名 日本超音波医学会 超音波専門医1名
疾患の比率	婦人科腫瘍 45%、周産期 45%、生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	婦人科35床 産科36床 NICU9床 新生児30床
患者数	手術数 約1,400件/年 婦人科手術 約900件/年 (悪性浸潤癌 約110件、腹腔鏡手術 450件) 分娩 約1,000例/年 帝王切開 約450件/年 母体搬送 約100件/年 外来患者数 約37,000名/年
病院の特徴	「日本産科婦人科学会専門医制度研修施設」に加えて「周産期専門医制度基幹施設」、「婦人科腫瘍研修認定施設」、「産婦人科内視鏡学会認定研修施設」および「日本超音波医学会専門医研修施設」となっています。サブスペシャリティである周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医、産婦人科内視鏡学会認定医、日本超音波医学会専門医、臨床遺伝専門医、女性ヘルスケア専門医が取得可能です。
研修の特徴	当科で分娩する妊婦さんの多くは、何らかのリスクを有しているいわゆるハイリスク妊婦さんです。代表的には胎児心疾患、胎児中枢神経疾患等の胎児疾患、切迫早産、多胎妊娠、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、高齢妊娠、内科疾患合併妊娠などの異常妊娠、偶発合併症妊娠などが挙げられます。また、産科危機的出血に代表される分娩時・産褥救急も対応しています。ハイリスクの分娩が多いため、緊急帝王切開術、吸引分娩等の異常分娩が多くを占めてい

	<p>ます。正常妊娠分娩のみならず、様々な異常妊娠分娩を経験することが可能です。</p> <p>昨今、胎児心疾患等、出生直後より治療介入を要する疾患の体内診断の重要性が増えています。当科では全国に先駆けて、平成19年より全妊婦を対象とした胎児スクリーニング外来を開設しています。これにより当科の胎内診断率は向上しており、出生前から新生児科、循環器小児科、小児外科等の各専門科と連携を行っています。超音波専門医のもとで十分な指導を受けることができます。</p> <p>当科では以前より、低侵襲手術である腹腔鏡下手術を積極的に取り入れてきました。良性腫瘍である卵巣嚢腫、子宮筋腫などの大部分は、腹腔鏡下手術で対応しています。婦人科悪性腫瘍の症例数は全国的にも有数ですが、初期子宮頸癌・体癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術で対応しています。婦人科腫瘍専門医、内視鏡学会技術認定医のもとで十分な研鑽を積むことができます。</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本婦人科腫瘍学会 専門医制度指定修練施設 日本周産期・新生児医学会 母胎・胎児専門医基幹研修施設 産婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 女性ヘルスケア認定研修施設
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<福山医療センター>

指導責任者	山本暖
医師数	常勤5名 非常勤0名 計5名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医1名・専門医3名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍暫定指導医1名・専門医1名 日本周産期・新生児医学会(母胎・胎児) 暫定指導医1名 日本がん治療認定医機構 認定医1名
疾患の比率	周産期50%、婦人科腫瘍40%、女性ヘルスケア10%
病床	50床
患者数	婦人科手術 約300件/年(内訳 浸潤がん60件 良性・他240件) 分娩 約650例/年 帝王切開約250件/年 母体搬送100件/年 外来患者数 約14000名/年
病院の特徴	日本産科婦人科学会専門医制度研修施設です。地域周産期センターであり、周産期専門医が取得可能です。現在婦人科腫瘍研修認定施設ではありません(常勤病理医不在のため)が、婦人科悪性腫瘍疾患は非常に多いです。
研修の特徴	良性から悪性までのあらゆる婦人科疾患が豊富です。手術などのスキルをのばすにはうってつけです。産科疾患は紹介が多く、緊急症例が多いため帝切数が豊富です。また新生児科が充実しておりNICUのバックアップが得られます。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児医学会 母胎・胎児専門医研修施設
専攻医受け入れ可能人数	2名/年

<福山市民病院>

指導責任者	青江尚志
医師数	常勤4名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 指導医3名・専門医1名 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医1名 日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医1名

	母体保護指定医 2 名
疾患の比率	婦人科 50%, 周産期 40%, 生殖・内分泌・女性ヘルスケア 10%
病床	産婦人科 13 床、新生児 2 床
患者数	外来患者実数:5139 名、入院患者実数:689 名 手術総数:301 件、浸潤がん手術:23 件、分娩総数:195 件、帝王切開:85 件 救急車受け入れ:43 件、母体搬送受け入れ:24 件
病院の特徴	救命救急センターを併設しているため救急疾患、特に産後症例が多いことと、がん診療連携拠点病院でもあるので悪性疾患にも対応していることが特徴である。
研修の特徴	病院の方針として断らないとモットーにしているため、NICU 関連以外の疾患はあらゆる疾患を経験することができる。特に救命救急に関する疾患は豊富であり、妊娠高血圧腎症など分娩前の症例から分娩後出血など産褥疾患にわたる産科症例から、子宮外妊娠・卵巣腫瘍捻転および破裂と様々な婦人科緊急症例がある。 悪性疾患も初期の疾患から救急搬送される進行症例まで幅広く経験・加療することができる。ただし所謂正常妊娠・分娩は今のところ少ない状況であるので、正常妊娠・分娩の研修が十分に行えた研修医にとっては格好の研修施設であると考えられる。
学会認定施設	日本産科婦人科学会 専門医制度卒業後研修指導施設
専攻医受け入れ可能人数	1 名/年

<三豊総合病院>

指導責任者	石原 剛
医師数	常勤 3 名 非常勤 4 名 計 7 名
指導医・専門医数	日本産科婦人科学会 専門医 2 名 (内指導医 1 名)
疾患の比率	生殖内分泌 10% 婦人科腫瘍 20% 周産期 40% 女性のヘルスケア 30%
病床	産婦人科 24 床
患者数	外来患者数 9058 人、入院患者数 3761 人 総手術数 136 件、総分娩数 192 件 (帝王切開数 54 件)
病院の特徴	三豊総合病院は香川県西讃地域における基幹病院である。救急患者の搬送も多く女性特有の疾患による救急医療、女性特有のプライマリケアについて研修を行うことができる。正常分娩の管理、婦人科疾患の診断、産科・婦人科手術の執刀、助手、外来診療等を研修指導医の指導のもと行っている。また他科の医師にも相談しやすい環境にある。
研修の特徴	三豊総合病院ではプライマリケアと関連深い領域については十分に研修可能であるが婦人科腫瘍、生殖・内分泌の領域については症例数が不足しており十分な研修を提供することができず岡山大学病院と連携し研修を行っている。また研修医の学会発表、論文作成等の指導も積極的に行っている。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
専攻医受け入れ可能人数	1 名/年

<屋島総合病院>

指導責任者	河西 邦浩
医師数	常勤 1 名、非常勤 1 名
指導医・専門医数	指導医 1 名 1 名 (日本産科婦人科学会専門医、母体保護指定医、日本がん治療認定医、日本女性医学学会専門医および指導医)
疾患の比率	婦人科腫瘍 40%, 周産期 40%, 内分泌・女性ヘルスケア 20%

病床	産婦人科15床
患者数	外来患者数：40人/日、入院患者数：15人/日、分娩数192件/年（2017年）、手術件数合計150件/年：帝王切開24件、腹腔鏡手術14件、腹式子宮摘出術29件、悪性手術5件、骨盤臓器脱手術26件など（2017年）
病院の特徴	当院は272床の総合病院です。中規模病院ならではのフットワークの軽さと、他科と相談しやすい環境が特徴です。また仕事以外でも他職種のスタッフとも交流がありアットホームな病院です。平成28年に新築移転し、産婦人科は外来と病棟がワンフロアで配置され、女性のプライバシーに配慮した構造となっています。
研修の特徴	当科では積極的に業務に参加し、なるべく様々な経験を積んでいただきます。希望する学会や研修会なども積極的に参加してもらっています。
学会認定施設	がん治療認定研修施設 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修連携施設
専攻医受け入れ可能人数	1名/年